

第1回目黒区住宅政策審議会小委員会について（報告）

小委員会の位置付けと答申の方向性について

■小委員会の位置付け

- ・住宅政策審議会の効率的な運営のために設置。
- ・審議会同様、公開の会議である。
- ・小委員会以外の委員には開催通知を参考送付する。オブザーバーとして傍聴することができる。

■答申の方向性

- ・前回の答申の第3、第4、第5と第6のエッセンスまでか。場合によっては第4の体系図まででいい。
- ・住宅課がやることを体系立てて出すことが重要。
- ・データは資料編として出してほしい。

答申（案）に係る区民意見募集について

■区民意見募集の実施について

- ・出される意見は少ないとしてもやる方がいいと思う。
- ・意見が出やすいような工夫をする。やり方を調べてもらって効果的な方法でやれるとよい。

目黒区住宅マスタープランの改定に向けて

■全体について

- ・特に重点的にやるのが基本目標等の順番として表れるといいのではないか。
- ・5年間で改善したところは表現を弱め、改善できなかったところは強化してはどうか。
- ・5年でやれたこと、やれなかったことを資料として出してほしい。

■基本理念について

- ・基本理念は仮置きしておいて、中身の議論をしてから基本理念に戻る方法もある。
- ・「誰もが」「安心して」「住み続けられる」という言葉は意味がある
- ・目黒らしさを表す文言を入れてはどうか。

■基本目標について

- ・安全安心、セーフティネット、住まい手の主体性の向上という3つの柱にする。
- ・安全安心については、防災性が第一である。防犯性は必要なのか。
- ・セーフティネットに「住みなれたコミュニティでの生活の継続的な支援」を入れる。
- ・基本目標に住教育を入れてほしい。コミュニティのつながりができる住宅の建て方など、区民がよりよく住むための考えを共有していく。
- ・参加型住まいや助け合う住まい方が大事。

■進め方について

- ・中身について議論ができるような進め方にできると良い。

第2回住宅政策審議会の議題について

■答申についての考え方

- ・計画は区がつくるものであり、審議会は答申で計画のもととなる方針や方向性をきちんと出せばいいのではないか。

■第2回住宅政策審議会等の議題について

- ・第2回は基本目標を中心に議論し、施策目標については時間があれば議論する。第3回は施策目標を議論する。